

「わたしは大森深智」

前橋市立木瀬中学校 三年

大森 深智

私の家の表札には二つの名字が刻んである。沼山と大森。ただし、祖父母と一緒に住んでいるわけではない。ではなぜ？それは私の両親が夫婦別姓だからだ。そう聞いて「ああ、あのことね」と理解できる人はあまり多くないだろう。夫婦別姓とは、簡単に言うと二人の名字を維持したまま結婚することだ。しかし、現在の日本の法律でそれは認められていない。だから、父と母は法律上の結婚をしていない。私の家では、母と姉が沼山、父と兄、そして私が大森だ。

小さい頃、それが当たり前だった私は、「あなたの家のもう一つの名字は？」とよく聞いていた。それが私の普通だった。次第に、名字が二つあることは一般的でないと分かったが、気にはいかなかった。しかし、名字の話をした時に「え、なんで」という素直な疑問

や、「あ、ごめん」と聞いてはいけないうような反応が返ってくる、どう説明しようかと悩むものだった。それでも、ほかの家とは違うと思うだけで、嫌だとは思わなかった。むしろ面白くさえ感じていた。

例えば、兄妹での出席番号順の話。大森の私と兄は早い番号だが沼山の姉は遅い番号。家族なのに違うということが面白かった。姉はなぜか「遅い番号だから自己紹介までに時間があるのはいいでしょ！」という「遅い番号マウント」をとる。「なんでも早く終わるのは早い番号の方だから！」と対抗して言い返す私。そんな違いが話題になると、ふと想像する。もし自分が沼山だったら沼山深智。ちよつと合わないなと考えてみたり。そんな風に考えることが楽しい。こういう違いがあるからこそ、私は大森深智というアイデンティティを強く実感しているともいえる。

私は、今まで以上に夫婦別姓について調べるようになった。すると、反対意見を目にした。夫婦別姓をよく知らない人は多いと思う。だから、反対意見が出るのは当たり前だ。しかし、「え？」と思う意見があった。「家族の絆がそこなわれる」や「親と名字が違う

のは子どもがかわいそう」などの意見だ。おそらく、名字が違うことで、家族という認識がしづらくなる、子どもがいじめられてしまう、という考えから来たものだろう。「家族は同じ名字」が当たり前の人にとって、夫婦別姓は違和感を覚えるもので、そこから、マイナズな考えが生まれたのだと想像できる。しかし、私からすると「そんなことはない」と強く感じる。名字が違うについても私たちは家族だ。よく沼山と大森両方の祖母の家に帰省したり、家族で誕生日パーティーをしたりする。私たちには絆が確かに存在する。さらに、「子どもがかわいそう」という意見には、親と名字が違って嫌だと思ったことはない。両親が、それぞれの名字を大切にしていることを、むしろ誇りにさえ感じている。また、名字のことで疑問をもたれることはあっても、いじめられることは一度もなかった。それに、夫婦別姓の子どもだからこそ得られる面白みがあると私は考える。

とはいえ、家族の在り方は多様であり、夫婦同姓の人が間違っているとは思わない。一体感が出るという考えや、好きな人と名字を合わせたいという気持ち

も分かる。私も将来、結婚したら夫婦同姓にするかもしれない。ただ、私はほかの可能性もあつて知っている。そして、それを色々な人に知ってほしい。結婚はしたいが、互いに名字を残したい人、名字の変更で結婚や離婚といったプライバシーを知られたくない人。そんな人々の人生を、その可能性がもつと自由にするだろう。

多様性が尊重される世の中とは、人々が自分のアイデンティティを大切にし、自分らしく生きることができる世の中である。結婚して同じ名字を選ぶ。それぞれが名字を保ったまま家族になる。そのような、一人一人の生き方を尊重することが、多様性の一歩になるのではないだろうか。

最後に、もう一度皆さんに伝えたい。名字が違うだけのことで、家族の絆は壊れない。だから、私はこれから自分の名前を大切にして、もつと自分らしくありたいと思う。そして、この名前で良かったと思える人生を歩んでいきたい。